

## 七里のみんなでカレーを食べる

### ～五個荘七里町スポーツフェスティバル・防災訓練～

**五個荘七里町**は、人口257人、72世帯で高齢化率約31.4%の自治会である。毎年10月の第2日曜日に、七里町の一大イベントで、ほぼすべての世帯が参加する「スポーツフェスティバル」が開催されている。自治会の防災訓練を併催し、かまどベンチで温めたカレーを参加者全員が食べるのが、七里ならではの取組みとなっている。

#### 1. 運動会+防災訓練=スポーツフェスティバル

五個荘七里町（以下、七里町）では毎年10月の第2日曜日に、「スポーツフェスティバル」（以下、フェスティバル）を開催している。

七里町のフェスティバルには、防災訓練がプログラムに入っている。

なぜ、防災訓練が入っているのか。それは、高齢化が進む七里町では、競技ばかりの運動会では高齢者はしんどいので参加しなくなる。防災訓練も体力が要るので参加しなくなる。そこで考えたのが、自治会のみんなが参加する運動会と防災訓練を組み合わせたフェスティバルである。

昨年（令和元年）は10月13日の日曜日に開催した。



かまどベンチでお湯を沸かし、レトルトカレーを温める

午前9時に開会し、子供会による「選手宣誓」によってスタート。全員でラジオ体操をした後は、「子ども達集まれ！おやつにGO！」（小学生以下）、「それゆけ！あんぱんRUN！」（自由参加）「車輪コロコロ」（自由参加）、「あっちへこっちへ追っかけ玉入れ競争」（各団体・一般）「爆笑！デカパンリレー」（自由参加）、「けつ圧測定」（自由参加）、「綱引き」（各団体・一般）、「親子対抗リレー」（小学生・中学生・PTA）と楽しそうなプログラムが繰り広げられる。

#### 2. 炊き出し訓練と放水訓練

これに並行して実施されるもう一つのプログラムが、かまどベンチを使った炊き出し訓練である。

担うのは特設消防団の7名の団員たち。10時頃からかまどベンチに芝と薪で火を起こし、大鍋2つにたっぷりとお湯を沸かす。

沸かしたお湯で、130食分のレトルトカレーを温める。

そして、プロパンガスと自治会館からもってきた5升炊きの炊飯器3台でお米を10升炊く。お米は「百姓俱楽部」（農事組合法人七里町百姓俱楽部）が新米を提供してくれている。



七里町の小型ポンプ車

最初は各組で昼食を準備していた。しかし、さくら公園にかまどベンチができたので、それを活用しようということになり、平成26年（2014）から全員分のお昼を準備することになった。

最初の2年は豚汁であったが、具材が多く調理時間もかかるため、平成28年（2016）からレトルトカレーとなった。

そして、放水訓練が始まる。放水訓練は市の消防団7名が、次の順番で展開する。

- ①特設消防団の年間行動計画報告
- ②七里所有の小型ポンプ車の点検内容
- ③七里所有小型ポンプ車の操作手順説明及び注意点
- ④七里町所有小型ポンプ車操作体験

この訓練は、自治会長が「防火防災訓練実施計画書」を市に提出して実施する訓練である。年によってはAEDを使った救命講習も行われれる。

消防団員が公園の隣の田んぼに勢いよく放水し、子どもたちも一緒に体験する。



七里町の小型ポンプ車

### 3. みんなで非常食体験

放水訓練が終了すると、参加者全員がカレーライスをいただく。かまどベンチを使う訓練だけではなく、非常食としてのカレーを自治会のみんなで一緒に食べるという「非常時体験」をする訓練である。

余った御飯は、みんなでカレー皿にいっぱい盛って持ち帰る。百姓倶楽部の方々が丹精込めて作ったお米である。無駄にはしない。

みんなでカレーを食べた後、午後のプログラムの「勝ち残りじゃんけん」を行い、「お楽しみ抽選会」でフィナーレとなる。副自治会長による閉会宣言の後、万歳三唱で幕を閉じる。

自治会長の平田光男さんは「今の形の方が、住民のみなさんが参加しやすくなりました」と話す。

フェスティバル全体を企画運営するのはスポーツ推進員である。2人の体育協力員が前年度の体育協力員とチームになって企画するが、今年（令和2年）はコロナ禍でやむなく中止となった。

平田さんは「来年は工夫してやれるのではと思っています」と話す。

令和3年（2021）1月24日（日）に新しい自治会館の竣工式が行われ、七里町の新しい自治の拠点が完成した。

七里町の記念すべき年に、37回目のフェス夕が開催され、七里町のみんなでカレーを食べる日が来るのが楽しみである。



子どもたちの放水体験